

SANYANG MOTOR CO.,LTD.

3 CHUNG HUA ROAD HUKOU HSINCHU TAIWAN,P.R.C.

TEL:886-3-598-1911 FAX:886-3-598-1844

E-mail:SERVICE@sym.com.tw

<http://www.sym.com.tw>



オーナーズマニュアル



ADX125



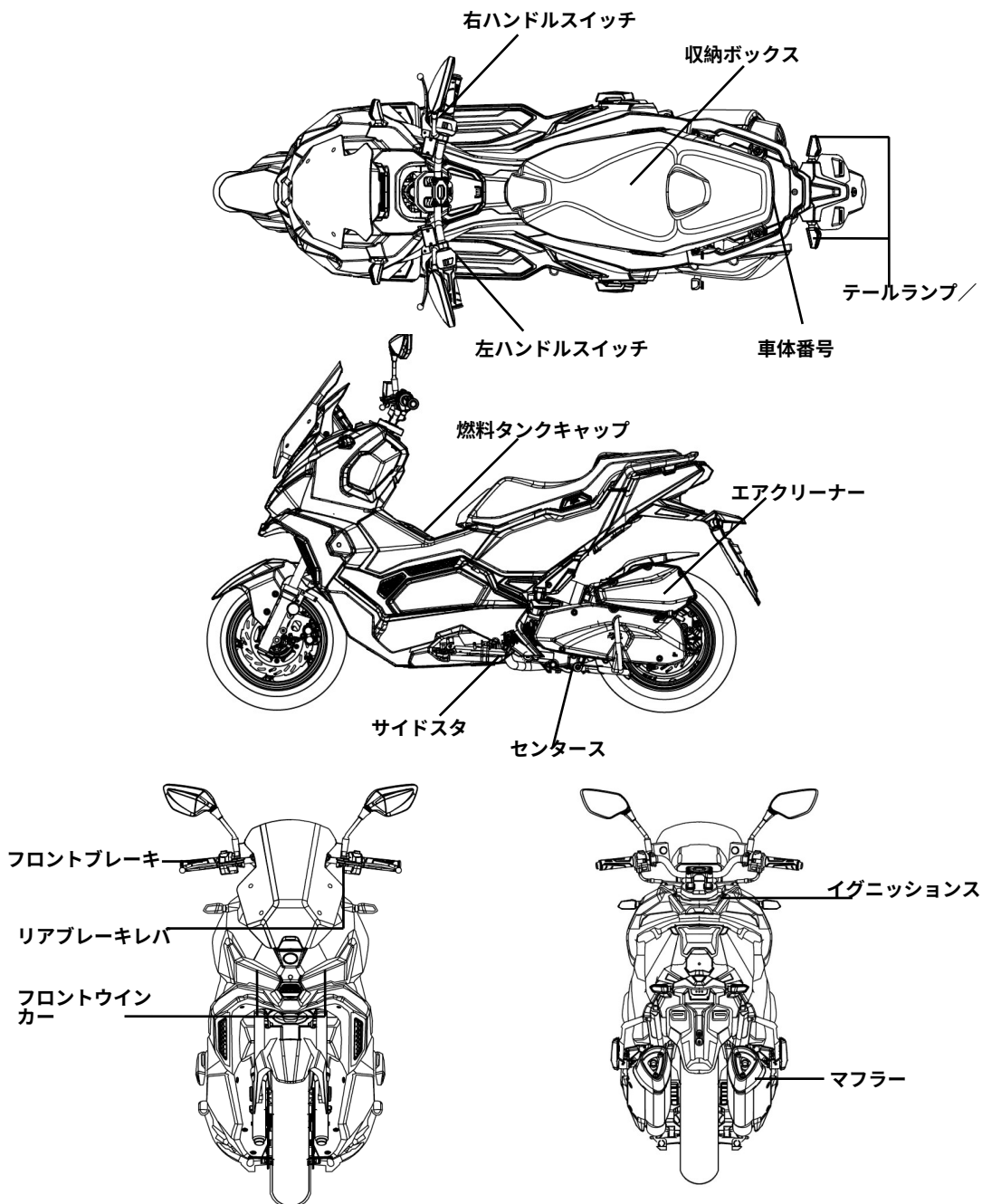
1.目次

1.目次.....	1
2.各部の名称.....	3
3.走行前に.....	4
4.安全運転.....	4
5.運転.....	5
6.純正部品の使用.....	5
7.各部の使用法.....	6
メーター.....	6
イグニッションスイッチの操作.....	9
ハンドルロックスイッチの操作.....	9
燃料タンクキャップスイッチの操作.....	9
盗難防止インテリジェントロックの説明（インテリジェントロック搭載モデル用）.....	9
各ボタンの使用法.....	12
収納ボックス.....	13
ヘルメットフック.....	14
ブレーキ.....	14
8.エンジン始動時の要点と注意事項.....	15
9.上手な発進方法.....	16
スロットルグリップの操作.....	16
駐車方法.....	16
10.走行前点検・整備.....	17
日常点検.....	17
エンジンオイルの点検と交換.....	17
燃料の点検.....	18
トランスミッションオイルの点検と交換.....	18
ブレーキ遊びの点検と調整.....	19
ディスクブレーキの点検（車種による）.....	19
スロットルグリップの遊び調整.....	21
バッテリーの点検・整備.....	21
タイヤの点検.....	22
ハンドルおよびフロントショックアブソーバーの点検.....	22
ヒューズの点検と交換.....	23
ウインカーとホーンの点検.....	23
前後灯火類の点検.....	23
ブレーキランプの点検.....	23

1.目次

燃料漏れの点検.....	24
車体各部の給油（潤滑）状態の点検.....	24
スパークプラグの点検.....	24
エアクリーナーの点検.....	24
11.異常や不具合が発生したとき.....	25
エンジンが始動しないときの診断.....	25
12.エンジン用燃料に関する注意事項.....	25
13.トランスミッションオイル.....	25
14.オートバイ運転時の注意事項.....	26
15. アンチロックブレーキシステム.....	27
TCS システム.....	27
16. 冷却系統の点検.....	28
17.定期整備スケジュール.....	29
18.諸元.....	30

2.各部の名称



3. 走行前に

本書では、安全な運転方法や簡単な点検方法など、本車両の正しい使用方法について説明しています。より快適で安全な走行のため、本書をよくお読みください。

お客様のために、SYM 正規販売店にて取扱説明書をお受け取りいただき、以下の内容をよくお読みください。

- 車両の正しい使用方法。
- 納車前点検・整備について。

この度はお買い上げいただき誠にありがとうございます

車両の性能を最大限に発揮させるため、定期点検・整備を確実に実施してください。

新車ご購入後、最初の 1000km 走行時に正規販売店にて初回点検を受けられることをお勧めします。その後は 1000km ごとに定期点検を受けてください。

- 車両の仕様・構造が変更され、取扱説明書やカタログに掲載の写真・図と異なる場合は、実際の車両の仕様・構造が優先されるものとします。

4. 安全運転

運転の際はリラックスし、適切な服装を着用することが重要です。交通規則を守り、あせらず、常に注意深く落ち着いて運転してください。

通常、購入したばかりの車両は慎重に運転する方がほとんどですが、車両に慣れてくると運転が無謀になりがちで、事故につながるおそれがあります。

□ 次の点にご注意ください。

- 運転の際は必ずヘルメットを着用し、あごひもを確実に締めてください。
- 袖口が開いていたりゆるんでいたりする服は、風にあおられて袖口がハンドルバーに巻き込まれるおそれがあり、走行の安全性に影響します。
- そのため、袖口の締まった服を着用してください。
- 運転中はハンドルバーを両手でしっかりと握ってください。片手での運転は絶対にしないでください。
- 制限速度を守ってください。
- 適切なローヒールの靴を着用してください。
- **スケジュールに従って定期整備・点検を実施してください。**

⚠ 警告！！

- 同乗者が排気管でやけどをしないよう、同乗者が必ずステップに足を乗せていることを確認してください。
- 走行後は排気管が非常に高温になっています。点検や整備を行う際は、やけどをしないよう注意してください。
- 走行後は排気管が非常に高温になっています。他人が排気管でやけどをしないよう、駐車する場所を適切に選んでください。

⚠ 注意：

車両を改造すると、構造や性能に影響を及ぼし、エンジンの調子不良や排気音の悪化を招き、車両の寿命を縮めることとなります。

また、改造は法律に違反する行為であり、本来の設計・仕様に適合しなくなります。

改造した車両は保証の対象外となりますので、無断で車両を改造しないでください。

5. 走行

- 腕、手のひら、腰、つま先など、身体各部の力を抜き、必要ときにすばやく反応できるよう、最も楽な姿勢で走行してください。
- ライダーの姿勢は走行の安全性に大きく影響します。常に体の重心をシートの中央に置いてください。重心がシートの後方に偏ると前輪への荷重が減り、ハンドルのふらつきの原因となります。ハンドルが不安定な状態での走行は危険です。
- 旋回時にライダーが体を内側に傾けると、より楽に旋回できます。逆に、体と車両が傾かないと不安定に感じます。
- 凹凸のある未舗装路や不整地では車両の操作が難しくなります。あらかじめ路面状況を把握し、速度を落として、肩の力を使ってハンドルを操作してください。
- 推奨事項：走行の安全性やハンドル操作に影響を与えないよう、フロントのステップに不必要な荷物を積まないでください。

注意：

荷物を積んでいる場合と積んでいない場合とでは、ハンドルの感触がわずかに異なります。積載量が多すぎると、ハンドルが振れて走行の安全性に影響を及ぼすことがあります。したがって、車両に荷物を積みすぎないでください。

注意：

- ボディサイドカバーとエンジンの間に、ウエスなどの可燃物を置かないでください。火災により部品が損傷するおそれがあります。
- 破損を防ぐため、積載場所として指定されていない箇所に荷物を積まないでください。

推奨事項

車両の性能を最大限に引き出し、使用寿命を延ばすために：

最初の1か月間、または最初の1000kmは、エンジンおよび各 부품のならし運転期間です。

6. 純正部品の使用

車両の最良の性能を維持するためには、各 부품の品質、材質、加工精度が設計要件に適合している必要があります。「SYM 純正部品」は、オリジナル車両に使用されているものと同じ高品質な材料で作られています。設計仕様を満たすため、高度なエンジニアリングと厳格な品質管理を経るまで、いかなる部品も市場に出回ることはありません。したがって、部品を交換する際は、必ず「SYM 正規販売店」で「SYM 純正部品」をお買い求めください。市場で安価な模造部品を購入した場合、品質や耐久性についていかなる保証も受けられません。また、予期しないトラブルが発生し、車両の性能低下を招くおそれがあります。

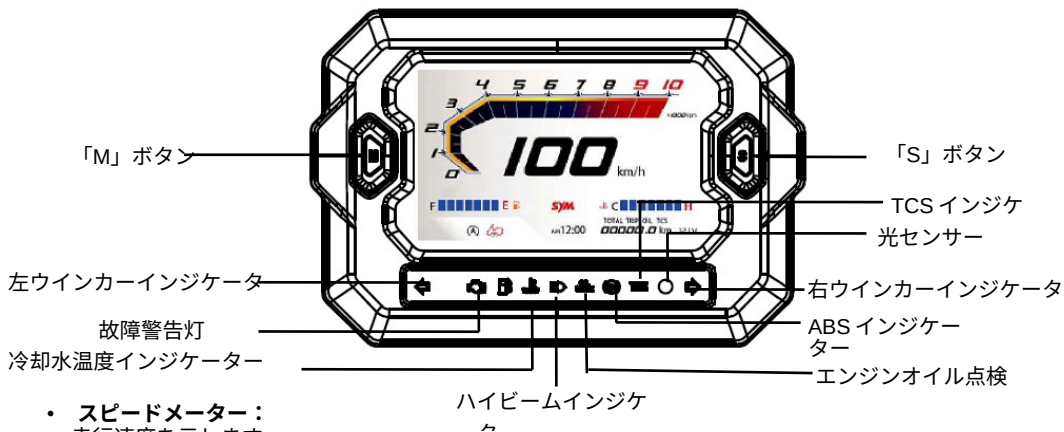
- 車両本来の性能を保ち、長くご使用いただくために、必ず SYM 純正部品をお使いください。

7. 各部の名称と機能

(以下はSYM4 ストロークスクーターの基本的な操作について説明したものであり、モデルによって異なる場合があります。詳細は本書の巻末をご参照ください。)

Sメーター S

スピードメーターパネルの図はモデルによって異なる場合がありますが、配置は通常同じです。



- **スピードメーター：**
走行速度を示します。
- **オドメーター：**
総走行距離を示します。
- **ハイビームインジケータ：**
ハイビームヘッドライトを点灯すると、このインジケータが点灯します。
- **ウインカー（左／右）インジケータ：**
ウインカースイッチを操作した方向に応じて、左右いずれかのインジケータが点滅します。
- **ABS インジケータランプ：**
 - ABS（アンチロックブレーキシステム）インジケータランプは、イグニッションスイッチをオンにすると点灯し、スクーターが走行を開始すると間もなく消灯します。ABS が正常であれば消灯したままです。ABS に異常がある場合はインジケータが点灯したままになります。インジケータランプが点灯している間は ABS は作動しませんが、ABS が故障しても通常のブレーキシステムは正常に機能します。
- **故障警告灯**
ECU に異常がある場合、警告灯が常時点灯します。
- **冷却水温度インジケータ：**
エンジン冷却水温度を示します。冷却水温度インジケータが点灯した場合は、冷却水量が十分か、およびファンモーターが作動しているかを確認してください。
- **燃料残量警告灯：**
タンク内の燃料が少なくなると、警告灯が点灯します。
- **エンジンオイル点検灯：**
オイル交換時期を知らせるランプで、車両が約 1,000km 走行するとインジケータが点灯し、オイル交換を促します。オイル交換後は、「OIL」モードで「S」ボタンを 2±0.5 秒間長押しすると、インジケータが消灯します。
- **燃料計：**

このメーターの針は、タンク内に残っている燃料の量を示します。

キースイッチを「OFF」にすると、針は「E」位置に留まります

・TCS インジケーター:

車両がKEY ONの状態になると、メーターからECUへ出力される情報によりTCS機能が有効になり、メーターの自己診断後にTCSインジケーターのID情報が読み込まれます。TCSインジケーターが消灯している場合（TCSに異常がない場合）、「M」ボタンを押してTCS切替モード（メーターの走行距離表示部にTCSと表示されます）に切り替え、「S」ボタンを2秒以上長押しするとON/OFFが切り替わります。TCSがONのときはインジケーターが消灯し、TCSがOFFのときはインジケーターが点灯します。

注意：TCSのON/OFFを切り替えた後は、再度切り替えるまで2秒待つ必要があります（連続した切替はできません。誤操作を防止するためです）。車速が5km/hを超えている場合、メーターでON/OFFを切り替えることはできません。

・キロメートルとマイルの切り替え:

「S」ボタンを押すごとにメートル法とヤード・ポンド法が順に切り替わり、選択内容が有効になります。「M」ボタンを長押しすると前の階層に戻ります。

・トリップのリセット:

TRIP表示状態で「S」ボタンを2±0.5秒間押すと、TRIPをゼロにリセットできます。

・表示モードの切り替え:

1. TOTAL表示状態で「M」ボタンを0.5±0.5秒間押すと、TRIP表示に切り替わります。
2. TRIP表示状態で「M」ボタンを0.5±0.5秒間押すと、OIL表示に切り替わります。
3. OIL表示状態で「M」ボタンを0.5±0.5秒間押すと、TCS表示に切り替わります。
4. TCS表示状態で「M」ボタンを0.5±0.5秒間押すと、TOTAL表示に切り替わります。

・TFTメーター機能の操作方法:

1. UI画面表示:

デイモード：白背景に黒文字（光センサーにより制御）



図 1



図 3



ナイトモード：黒背景に白文字（光センサーにより制御）



図 3



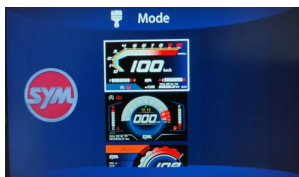
図 3



図 3

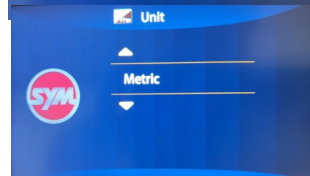
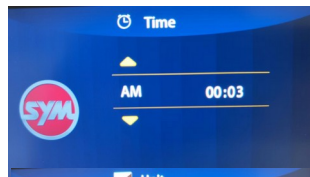
2.画面切り替え:

1. 設定画面に入り、「M」ボタンを押して選択項目を順に切り替えます
2. 「S」ボタンを押してUI画面の選択を確定します
3. 「M」ボタンを長押しすると前の画面に戻ります



3. 時計の設定:

1. 「M」ボタンを押して「時」の位置に切り替えると、調整可能な状態になるので、「S」ボタンを押して数値を増加させます
2. 再度「M」ボタンを押すと「分」の位置に移動します。「分」の数値が調整可能な状態になるので、「S」ボタンを押して増加させます
3. 「M」ボタンを長押しすると前の画面に戻ります。

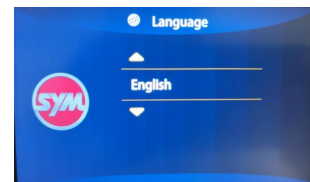


4. 単位の設定:

1. 設定画面に入り、「M」ボタンを押して単位設定を選択します。「S」ボタンを押して設定 (km/h、mph) を選択します
2. 「M」ボタンを長押しすると前の画面に戻ります。

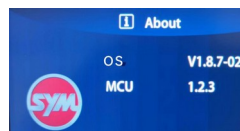
5. 言語の設定:

1. 設定画面に入り、「S」ボタンを押して選択を順に切り替えます:
「English (英語)」「French (フランス語)」「Spanish (スペイン語)」「Greek (ギリシャ語)」「Türkiye (トルコ語)」の中から切り替えます
2. 「M」ボタンを長押しすると前の画面に戻ります



6. 車両情報:

1. 設定画面に入り、「S」ボタンを押して順に切り替え、車両情報を選択します。
2. 「M」ボタンを長押しすると前の画面に戻ります

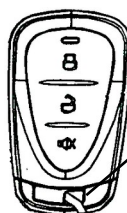
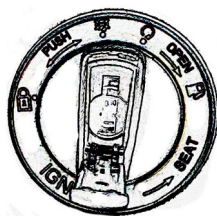


⚠ 注意：

メーターの時計が保存できない場合は、車両のKEYをOFFにした後、バッテリーを30秒間取り外してから再接続し、正しい時刻に手で調整してください。

§イグニッションスイッチの操作§

イグニッションスイッ



スマートキー(スイッチを押してからキーを抜いてください)

§盗難防止インテリジェントロックの説明（インテリジェントロック搭載モデル用）§

1. 盗難防止アラームの設定(イグニッションスイッチ OFF 時):

音・光による警報:リモコンの「**B**」ボタンを1回短く押します。ホーンが1回鳴り(ピー)、ロックがかかり、3秒後にシステムは音・光による警報モードに入ります。

サイレントアラーム:リモコンの「**X**」ボタンを1回短く押します。ホーンが1回鳴り(ピー)、ロックがかかり、3秒後にシステムはサイレントアラームモードに入ります。

2. 盗難防止アラームの解除と自動再設定

アラームが作動中の状態で、リモコンの「a**」ボタンを押します。ホーンが2回鳴り(ピッピッ)、ロックが解除され、アラームが解除されます。**

20秒以内にACCがオンにならない場合、アラームシステムはこれを誤操作による解除と判断し、自動的に元の警戒状態に戻ります。

注記: **a** ボタンを2秒以内に2回連続で押すと、システムは完全に解除され、自動的に再設定されることはありません。

3. ON から OFF への切り替え時の自動ロック

システムが解除された状態で車両を停止し、イグニッションをオフにする(メインスイッチを閉じる)と、20秒後に自動的にロックがかかり、システムはサイレントアラームモードに入ります。

4. LOCK 位置での自動ロック

システムが解除された状態で、イグニッションスイッチをOFF位置からLOCK位置に回します。1秒後に自動的にロックがかかり、3秒後にシステムはサイレントアラームモードに入ります。

LOCK位置(施錠状態)にあるとき、リモコンの解除ボタンを1回押します。15秒以内にLOCK位置から離脱しない場合、システムは自動的に元の警戒状態(音・光アラームモードまたはサイレントアラームモード)に戻ります。

LOCK位置にあるとき、「解除」ボタンを2秒以内に2回連続で押しても、システムは完全には解除されず、自動的に元の警戒状態(音・光アラームモードまたはサイレントアラームモード)に戻ります。解除状態でLOCK位置からOFF位置に切り替えと、システムは15秒後に自動的にロックがかかり、

サイレントアラームモードに入ります。「解除」ボタンを2秒以内に2回連続で押すと、システムは完全に解除され、自動的に再設定されることはなくなります。

5. 不正操作に対するソレノイドバルブ保護機能

ソレノイドバルブが10秒以内に10回操作された場合(10回目の操作で強制的にロックがかかり、サイレントアラームモードに入ります)、システムはこれを不正操作と認識し、保護機能を作動させます。

(これは、単独の警戒/解除操作を10回連続で行った場合、または警戒/解除の全サイクルを5回行った場合に該当します。)

保護モード中は、本体はリモコンに対して通常どおり応答しますが、ロックのソレノイドバルブは反応しません(作動しません)。システムは15秒後に自動的に保護モードを解除し、通常動作に戻ります。

6. アラームの一時停止

車両が振動検知によるアラームモードのとき、 ボタン、 ボタン、または  ボタンを短く押すとアラームが一時停止します。元の警戒状態は変わりません。

7. アラームモード

トリガー警戒状態	1回目の振動検知	2回目の振動検知（15秒以内）	備考
音と光によるアラーム	音と光によるアラームを3回作動	音と光によるアラームを15秒間作動（8サイクル連続で単音アラームモードに移行）	8サイクル連続して振動を検知すると、単音アラーム状態に移行します
サイレントアラーム	アラームなし	アラームなし	

8. LEDの状態

状態	LED インジケータの状態
セット状態	1.5秒間隔で4回速く点滅した後、5秒後に消灯します
解除状態	1.5秒間隔で4回速く点滅した後、5秒後に消灯します
ACC ON	5秒間点灯し続けた後、消灯します
アラーム作動時	アラーム音に合わせて点滅します

9. PKE アンロック

1. 盗難防止システムがセット状態にあり、イグニッションがOFFまたはLOCK位置にあるとき、ロックハンドルのPKEウェイクアップボタンを押します（または車両の振動が検知されたとき）。これによりPKEシステムが起動し、リモコンを探索します。1～3メートルの範囲内でリモコンが検知されると、ロックが解除され、アラームも解除されます。

2. OFF位置にあるとき：PKEアンロック後、20秒以内にACCがオンにされない場合、システムは自動的に元のセット状態（音と光によるアラームモードまたはサイレントアラームモード）に戻ります。

3. LOCK位置にあるとき：PKEアンロック後、15秒以内にLOCK位置から切り替ええない場合、システムは自動的に元のセット状態（音と光によるアラームモードまたはサイレントアラームモード）に戻ります。LOCK位置で解除ボタンを2秒以内に2回連続して押しても、システムは完全には解除されません。

4. LOCK位置にあるとき：PKEアンロック後、イグニッションをOFF位置に切り替ええると、システムは15秒後に自動的にロックし、サイレントアラームモードに移行します。OFF位置で解除ボタンを2秒以内に2回連続して押すと、システムは完全に解除されます。

10. IMMO 誘導式アンロック

盗難防止システムがセット状態にあり、イグニッションがOFFまたはLOCK位置にあるとき、ロックハンドルのPKEウェイクアップボタンを押します。10秒以内に、リモコンの裏面にIMMOアンテナの検知エリアから4～7cmの位置に近づけると、システムが自動的にアンロックされます。

IMMO 誘導式アンロック後もイグニッションが LOCK または OFF 位置のままの場合、システムは自動的に元のセット状態（音と光によるアラームモードまたはサイレントアラームモード）に戻ります。

（この機能は、リモコンの電池残量が少なく正常に操作できない場合に、車両をアンロックするために使用できます。）

11. IMMO 誘導式アンロック保護機能（不正操作防止）

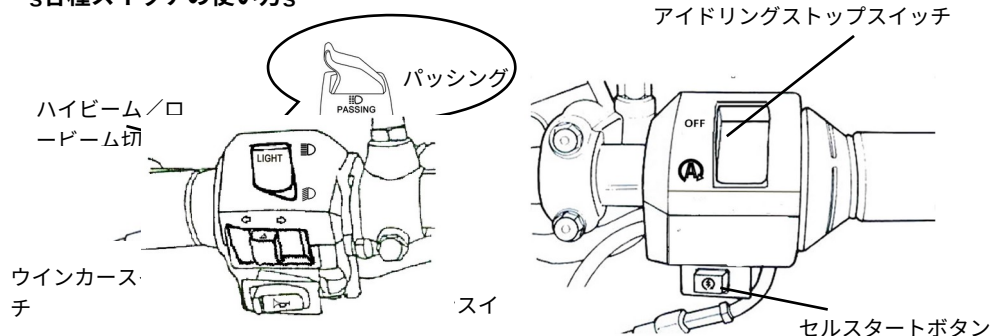
ロックの PKE ウェイクアップボタンが 15 秒以内に 10 回連続して押された場合（10 回目の押下で強制的にロックがかかり、サイレントアラームモードに移行します）、システムはこれを不正操作と判断し、自動的に 15 秒間 PKE 保護モードに入ります。

保護モード中は、本体はリモコンに対して通常どおり反応しますが、ロック操作および PKE 機能は無効になります。システムは 15 秒後に自動的に保護モードを終了し、通常動作に戻ります。

注意:

1. スペアキーを使用する際は、イグニッションを同じ位置にした状態で抜き差ししてください。
2. 車両から離れる際は、メインスイッチが「LOCK」位置になっていることを必ず確認してください。
3. バッテリー容量が 8Ah 以上であることを確認してください。
4. 長期間車両を使用しない場合は、バッテリーを取り外し、毎月充電してメンテナンスを行ってください。
5. リモコンボタンの有効範囲は 20 メートル以上です。有効範囲内での誤操作により車両がアンロックされないよう注意してください。
6. リモコンの操作可能距離が 10 メートル未満になった場合は、内部電池を交換してください。電池の仕様は SYM 純正の仕様に適合するものを使用してください。
7. SCN が承認していない電子部品を取り付けしないでください。バッテリーの異常消耗が頻発する原因となります。
8. リモコンを直射日光や雨に直接さらさないでください。
9. 騒音や振動の多い環境でシステムをセットするかどうかは慎重に判断してください。アラームが長時間鳴り続けると車両のバッテリーが消耗するおそれがあります。
10. リモコンの電池は保証の対象外です。
11. ユーザーによる分解や人的過失による損傷は保証の対象外です。
12. リモコンは精密機器です。落下させたり、水に浸したりしないでください。
13. この盗難防止装置は盗難の難易度を高めるものであり、盗難の抑止と所有者への注意喚起の役割を果たすものです。

S各種スイッチの使い方S



・セルスタートボタン

 このセルスタートボタンは、エンジンが停止しているときにセルスターターを作動させます。イグニッションスイッチをONにし、フロントまたはリアのブレーキレバーを握りながらこのボタンを押してエンジンを始動してください。

- 注記：**
- ・本スクーターにはヘッドライト常時点灯機能が搭載されており、イグニッションスイッチをONにするとポジションランプ、テールランプ、ナンバープレート灯が点灯します。これらのライトを消灯することはできません。
 - ・イグニッションスイッチをONにしたまま、長時間スクーターから離れないでください。

・パッシングライトボタン：

パッシングライトボタンを押すと、ハイビームインジケータランプが点灯し、前方車両のドライバーに追い越すことを知らせます。パッシングライトはボタンを離すとすぐに消灯します。

・ハイビーム／ロービーム切替スイッチ

これはヘッドライトのハイビームとロービームを切り替えるスイッチです。このスイッチを押すことでハイビームとロービームを切り替えます。



これはハイビーム側です。

これはロービーム側です。（市街地走行時はロービームにしてください。）

エンジン停止スイッチ：

通常、このスイッチは○位置にしておくことでスクーターが走行できます。緊急時には✕位置に切り替えてエンジンを停止させてください。

注記：

- ・エンジン停止スイッチでエンジンを停止できますが、すべての電気回路がオフになるわけではありません。通電、エンジン停止スイッチはエンジンを停止させるために使用してください。

ホーンスイッチ：

イグニッションスイッチがONの状態ではホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

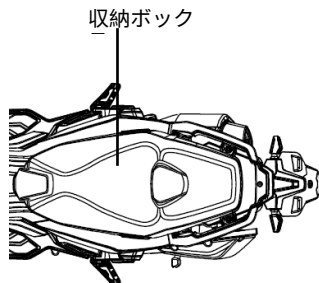
ウィンカースイッチ：

ウィンカースイッチを左←または右→に切り替えると、対応するウィンカーランプが点滅します。

点滅を止めるには、スイッチを押し込んでください。

S収納ボックス

- この収納ボックスはシートの下にあります。
- 収納ボックスを使用する際はシートを開けてください。ヘルメットを
収納ボックスに収納することができます。ヘルメットの大きさや
デザインによっては
収納スペースに収まらない場合があります。
- 収納ボックス容量: 22 L。
- 貴重品を収納ボックスに入れないでください。
- シートを押し下げた後、完全にロックされていることを確認してください。
- 洗車の前に貴重品を取り出し、濡れないようにしてください。
- エンジンの熱や高温の影響を受けるため、熱に弱い物を収納ボックスに入れないでください。



注記：

- 最大積載重量を超えないようにしてください。
- スクーターから離れる前に貴重品を取り出してください。

§ヘルメットホルダー§

- 車両を停止させ、ヘルメットのアゴ紐をフックに掛けてください。

⚠ 注意:

- 走行中はこのフックにヘルメットを掛けないでください。車両の損傷やヘルメットの保護性能低下の原因となります。

§ブレーキ§

- 不要な急ブレーキは避けてください。
- ブレーキをかける際は、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用してください。
- 長時間ブレーキをかけ続けることは避けてください。ブレーキが過熱し、制動効力が低下するおそれがあります。
- 雨天時など路面が滑りやすいときは、速度を落として早めにブレーキをかけてください。急ブレーキは、スリップや転倒を防ぐため絶対に行わないでください。
- フロントブレーキまたはリアブレーキのみを使用すると、車両が片側に引っ張られ、転倒の危険性が高まります。
- ABSを装備した車両であっても、コーナリング中のブレーキ操作はホイールのスリップを引き起こすことがあります。カーブを曲がる際は、前後ブレーキを軽くかける程度にとどめるか、ブレーキをかけないようにしてください。カーブに入る前に減速してください。

《エンジンブレーキ》

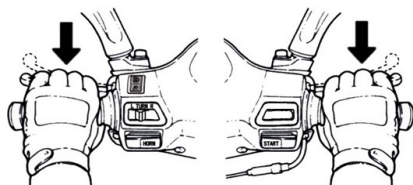
スロットルグリップを元の位置に戻し、エンジンブレーキをかけてください。

長い下り坂や急な坂道を走行する際は、フロントブレーキとリアブレーキを断続的にかける必要があります。

ABS

リアホイール用

フロントホイール用



8. エンジン始動時の重要事項と注意点

§エンジンの始動方法§

- エンジンを始動する前に、ガソリンの残量を確認してください。
- エンジンを始動する際は、車両が急発進しないよう、始動前にリアブレーキをかけてください。
- メインスイッチの電源を入れた後は、アクセルを操作せず、ブレーキをかけたままスタートスイッチボタンを押してください。



⚠ 注意：

- エンジンを始動する前に、オイルおよび燃料の量を確認してください。
- エンジンが始動したら、直ちにスターターボタンを離してください。
- スターターを3～5秒作動させてもエンジンが始動しない場合は、スロットルグリップを少し開けた状態でスターターボタンを押すと始動しやすくなります。
- スターターの損傷を防ぐため、スターターボタンを10秒以上押し続けしないでください。
- 数回試みてもエンジンが始動しない場合は、イグニッションスイッチをオフにし、10秒待ってから再度始動してください。
- エンジン作動中はスターターボタンを押さないでください。
- 排気ガスには有害物質が含まれています。エンジンは風通しの良い場所で始動してください。

§エンジンの停止方法§

- スロットルを完全に閉じます。
- イグニッションスイッチをオフにします。
- 平坦で安定した場所にスクーターを止め、サイドスタンドまたはメインスタンドを立てます。
- ハンドルバーをロックします。

注記：

- 本スクーターは、転倒時に自動的にエンジンを停止させる転倒センサーを装備しています。

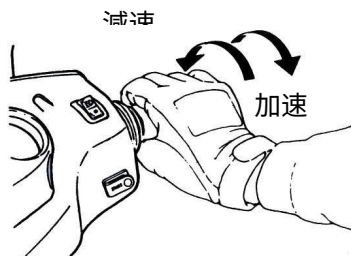
9.発進の最良の方法

- 発進前にウインカーを点灯させ、後方から車両が来ていないことを確認してから発進してください。

§スロットルグリップの操作§

加速：速度を上げること。坂道を走行する際は、スロットルグリップをゆっくり回し、エンジンの出力を発揮させてください。

減速：速度を落とすこと。



§駐車方法§

- 駐車場に近づくとき：
 - 早めにウインカーを点灯させ、前方、後方、左右の車両に注意しながら、内側の車線に入ってゆっくりと近づいてください。
 - スロットルグリップを元の位置に戻し、あらかじめブレーキをかけてください。（ブレーキをかけることでブレーキランプが点灯し、後続車両の運転者に警告します。）
 - 完全に停止したら：**
 - ウインカースイッチを元の位置に戻し、イグニッションスイッチキーを「OFF」位置に回してエンジンを停止させてください。
 - エンジンを停止させた後、車両の左側から降車し、交通の妨げにならない地面が平坦な駐車場所を選んで、メインスタンドを立ててください。
 - 左手でハンドルバーを握り、右手でシート前端を押さえるか、シート左下側の駐車用ハンドルを握ってください。
 - 右足でメインスタンドを踏み、しっかりと地面に立ててください。
- ご注意：**盗難を防ぐため、駐車後はハンドルロックをかけ、キーを抜いてください。

△ 注意：

- 交通の妨げにならない安全な場所に駐車してください。

10.乗車前点検・整備

(以下の部品については、部品配置図を参照してください。)

S 日常点検 S

点検項目		点検のポイント
エンジンオイル		エンジンオイルは十分に入っていますか？
燃料		十分な量がありますか？オクタン価 90 以上ですか？
ブレーキ	フロント	制動状態は良好ですか？ (ブレーキレバーの遊び：10~20mm)
	リア	制動状態は良好ですか？ (ブレーキレバーの遊び：10~20mm)
タイヤ	フロント	タイヤ空気圧は正常ですか？ (標準：1.8kgf/cm ²)
	リア	タイヤ空気圧は正常ですか？ (標準：2.30 kgf/cm ²)
ハンドルバー		ハンドルバーに異常な振動や操作の重さはありませんか？
スピードメーター、灯火類、バックミラー		正常に作動していますか？ 灯火は点灯しますか？後方からはっきり見えますか？
主要部品の締め付け状態		ネジやナットに緩みはありませんか？
異常箇所		以前の不具合が残っていませんか？

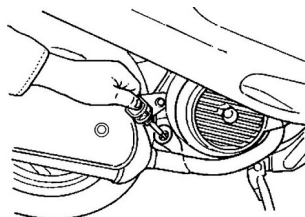
⚠ 注意：

- 日常点検で問題が見つかった場合は、再度使用する前に問題を解消してください。必要に応じて、「SYM 正規販売店または認定サービス担当者」による点検・修理を受けてください。

S エンジンオイルの点検と交換 S

・ 点検：

- 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支え、エンジン停止後 3~5 分経ってからオイルレベルゲージを抜き取ります。ゲージのオイルを拭き取り、再度ガイドチューブに差し込みます (回転させないでください)。
 - オイルレベルゲージを抜き取り、オイルレベルが上限と下限の間にあることを確認してください。
- オイルが下限を下回っている場合は、上限まで補充してください。(シリンダーやクランクケースなどからの漏れも確認してください。)



オイル交換：

- 最初のオイル交換は 1000km 走行後に行い、以降は 5000km ごとに交換してください。
- エンジンの最大性能を維持するため、1000km ごとにエンジンオイルの量を点検してください。オイルが不足している場合は、上限まで補充してください。
- エンジンオイル：SL/CF SAE 10W-30 規格以上のエンジンオイルを使用してください。SYM では MOTUL SCOOTER POWER LE を推奨しています。それ以外を使用した場合、故障は保証の対象となりません。
- オイル容量：1.05 リットル（フィルターを交換しない場合は 1 リットル）。
- 外気温が 0℃ 以下の場合は、SAE 5W-40 を使用してください。

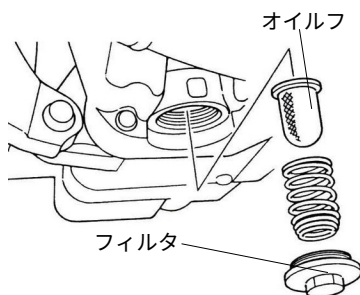


【オイルフィルターの清掃】

オイルフィルターナットを取り外してエレメントを取り出します。ガソリンまたはエアスプレーガンを使用して、エレメントから異物を除去してください。

⚠ 警告：

- 車両が平坦でない場所に停めてある場合や、エンジン停止直後にオイルレベルを確認すると、正確な値が得られません。
- エンジン停止直後は、エンジンとマフラーが高温になっています。エンジンオイルの点検や交換の際は、やけどをしないよう十分注意してください。
- 補充後にオイルレベルが再び下限に近づく場合は、エンジンからの漏れを点検し、再度補充してください。
- オイルを補充する際は、火花や火気に近づけないでください。



オイルの乳化を防ぐ

- 定期的な暖機運転
- 毎回 1 分間の暖機運転を行う
- 月に 1 回は最低 10km 走行する
- 3 ヶ月または 5000km でオイルを交換する

S燃料の点検S

- メインスイッチキーを「ON」位置に回し、燃料計の針の位置を確認して、燃料タンク内に十分な燃料があることを確認してください。
- 本車両のエンジンは、オクタン価 92 以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- 給油の際は、メイנסタンドをしっかりと地面に立て、エンジンを停止し、車両に火気を近づけないでください。
- 給油の際は、燃料の上限レベルを超えて注油しないでください。
- 燃料タンクキャップが確実に締められていることを確認してください。

Sトランスミッションオイルの点検と交換S

点検：

- 平坦な場所でメイנסタンドを使用して車両を支え、エンジン停止後 3～5 分待ちます。トランスミッションオイルの注入ボルトを外し、ドレンボルトの下に計量カップを置いてからドレンボルトを外します。オイルを計量カップに流し込み、減少していないか確認してください。（分解時：110cc／交換時：100cc）。

オイル交換：

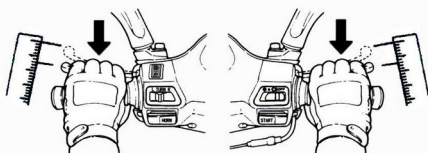
- エンジンを停止し、平坦な場所でメイנסタンドを使用して車両を支えます。注入ボルトとドレンボルトを外し、オイルを排出してください。
- ドレンボルトを取り付けて締め付けます。新しいトランスミッションオイル（100cc）を注入し、注入ボルトを取り付けて締め付けください。（ボルトが確実に締まっていること、漏れがないことを確認してください。）
- 推奨オイル：MOTUL MOTYL GEAR 75W90

§ブレーキの遊びの点検と調整§

点検：（ブレーキレバーの遊びは、必ずエンジンを停止した状態で点検してください。）

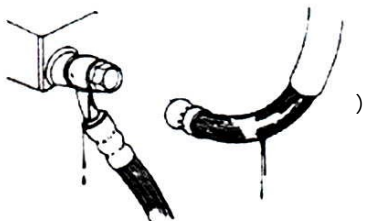
- 前後輪のブレーキレバーおよびペダルの遊び。
- ◆フロントブレーキレバーを点検する場合、その遊び（ブレーキがかかっていない状態から制動が始まるまでのレバーのストローク）は10~20mmであるべきです。レバーを強く握ったときにスポンジのような感触がある場合は異常です。

10~20 mm



§ディスクブレーキの点検§

- ブレーキラインに漏れや損傷がないか目視で確認し、レンチなどの工具を使用してブレーキラインの接続部に緩みがないか点検してください。また、走行中のハンドルバーの振動や部品同士の干渉によってブレーキラインが損傷していないか確認してください。異常が見つかった場合は、SYM 正規販売店で点検・修理を受けてください。



△ 注意：

- 乾燥した路面でゆっくりと走行し、フロントブレーキとリアブレーキを操作して不具合がないかを確認し、車両が最適な状態で安全に走行できることを確かめてください。

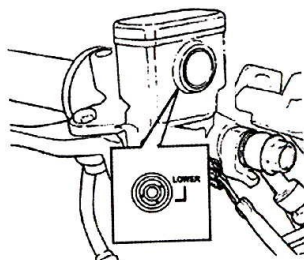
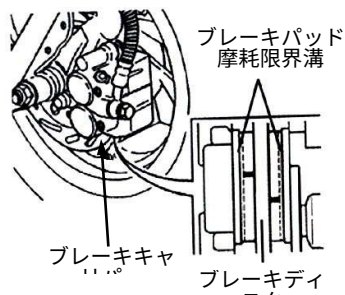
パッドに交換してください。

（ブレーキオイルリザーバー内のオイル量の点検）

（フロントブレーキパッドの点検）

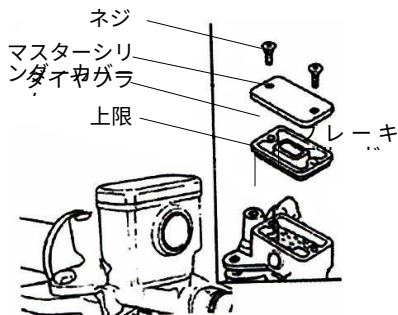
- ブレーキキャリパーの背面からブレーキを点検してください。ブレーキパッドの摩耗限界がブレーキディスクに達した場合は、新しい

- 車両を平坦な場所に駐車し、フルードレベルが「LOWER」マークを下回っていないか確認してください。推奨ブレーキフルード：MOTUL BRAKE FLUID DOT4。



(フロントホイールのブレーキフルード補充)

1. ネジを緩め、マスターシリンダーカバーを取り外します。
2. リザーバー周りの異物や汚れを拭き取り、異物がリザーバー内に落ちないように注意してください。
3. ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを取り外します。
4. ブレーキフルードを上限レベルまで補充します。
5. ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを取り付け、マスターシリンダーカバーを取り付けます。
5. ダイヤフラムの向きに注意し、異物がリザーバー内に落ちないようにしてください。また、マスターシリンダーカバーを確実に締め付けてください。

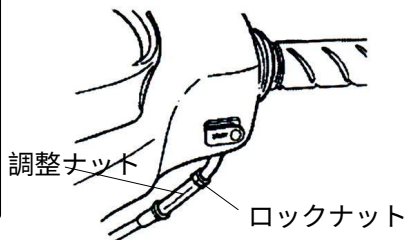
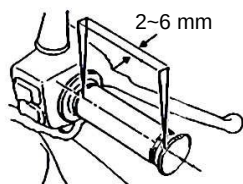


⚠ 注意：

- 化学反応を防ぐため、指定以外のブレーキフルードは使用しないでください。
- ブレーキフルードを補充する際は上限を超えて入れないでください。また、塗装面やプラスチック部品に付着すると損傷の原因となるため、こぼさないよう注意してください。

S スロットルグリップの遊び調整 S

- 適正なクリアランスでは、スロットルグリップに2~6mmの回転方向の遊びがあります。
- まずロックナットを緩め、調整ナットを回して調整します。調整が終わったら、ロックナットを確実に締め付けてください。



点検項目：

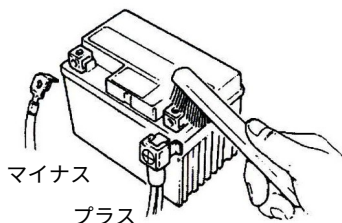
- スロットルバルブケーブルが全閉位置から全開位置までスムーズに動かか確認してください。
- ハンドルバーを左右に切り、スロットルバルブケーブルが干渉していないか確認してください。
- スロットルバルブケーブルが他のケーブルに妨げられてスムーズに操作できなくなっていないか確認してください。

S バッテリーの点検と整備 S

- 本車両はメンテナンスフリー型バッテリーを搭載しているため、電解液の点検や補充を行う必要はありません。異常が見られた場合は、SYM正規販売店で点検を受けてください。

(バッテリー端子の清掃)

- バッテリー端子を取り外し、汚れや腐食があれば清掃してください。
- バッテリーの取り外し手順は次のとおりです。
イグニッションスイッチキーを「OFF」位置にしてから、まずマイナスケーブルのネジを外してマイナスケーブルを外します。次に、プラスケーブルのネジを外してプラスケーブルを外します。



⚠ 注意：

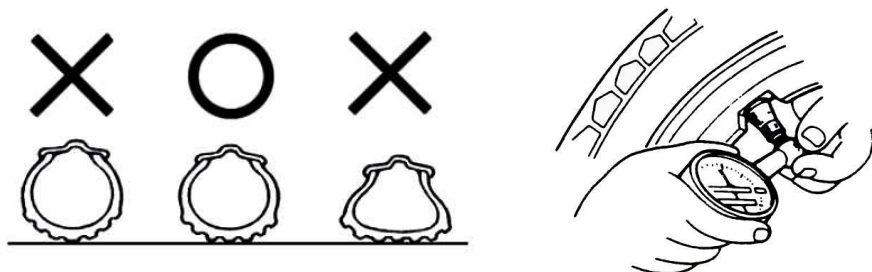
- バッテリー端子が腐食して白い粉が付着している場合は、温水で清掃してください。
- 端子に明らかな腐食が見られる場合は、ケーブルを外してから、スチールブラシまたはサンドペーパーで腐食を除去してください。
- 清掃後にバッテリーケーブルを取り付け、端子に薄くグリスを塗布してください。
- バッテリーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行ってください。

⚠ 注意：

- 本バッテリーは密閉型です。キャップは絶対に外さないでください。
- バッテリーを長期間使用しない場合、漏電や自己放電を防ぐため、バッテリーを車両から取り外し、フル充電した状態で風通しの良い薄暗い場所に保管してください。バッテリーを車両に搭載したままにする場合は、バッテリーのマイナスケーブルを外してください。
- バッテリーを交換する場合は、同一の密閉型バッテリー（メンテナンスフリー）と交換してください。

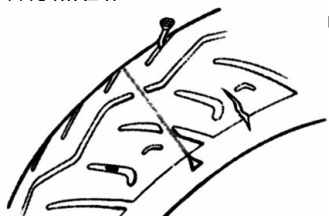
§タイヤの点検§

- タイヤの点検と空気補充は、エンジンを停止した状態で行ってください。
- タイヤの接地形状に異常がある場合は、空気圧ゲージで点検し、規定の空気圧まで補充してください。
- タイヤの空気圧は、タイヤが冷えている状態で空気圧ゲージを使用して点検してください。



標準タイヤ空気圧については仕様諸元を参照してください。

異物（釘や小石など）



スリット、ハジケ

- タイヤの前面および側面（サイドウォール）にひび割れや損傷がないか目視で確認してください。
- トレッドに釘や小石などの異物が刺さっていないか目視で確認してください。
- 「トレッド摩耗インジケーター」の状態を確認し、トレッド溝の深さが不足していないか点検してください。
- 摩耗インジケーターが露出しているタイヤは摩耗限度に達しているため、直ちに交換してください。

⚠ 注意：

- タイヤの空気圧異常、摩耗、ひび割れは、ハンドル操作不能やパンクを引き起こす最も重要な原因です。

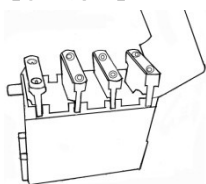
§ハンドルバー・フロントショックアブソーバーの点検§

- この点検は、エンジンを停止し、イグニッションスイッチキーを抜いた状態で行ってください。
- フロントショックアブソーバーに損傷がないか目視で確認してください。
- ハンドルバーを上下に操作し、フロントショックアブソーバーの曲がりによる異音がないか確認してください。
- レンチでフロントショックアブソーバーのボルトとナットの締め付け状態を確認してください。
- ハンドルバーを上下・左右・前後に揺すり、ガタつき、過度な抵抗、片側への引っ張りがないか確認してください。
- ブレーキケーブルによってハンドルバーが必要以上に引っ張られていないか確認してください。
- 異常が見つかった場合は、SYM 正規販売店で点検または調整を受けてください。

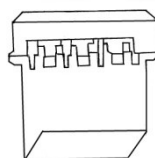
Sヒューズの点検と交換S

- 収納ボックスを取り外すと、バッテリー付近にヒューズホルダーがあります。
- ヒューズボックスのカバーを開け、ヒューズを引き抜いて、損傷や断線がないか確認してください。
- ヒューズを交換する際は、配線コネクタにしっかりと固定してください。接続が緩んでいると、過熱や損傷の原因となります。
- 電球などの電装部品を交換する際は、規定の仕様に合った部品のみを使用してください。規定外の仕様の部品を使用すると、ヒューズが切れたりバッテリーが過放電したりする恐れがあります。
- 車両を洗浄する際は、ヒューズボックスに直接、またはその周囲に水をかけないでください。
- 新しいヒューズがすぐにまた切れる場合は、再交換する前に故障の原因を確認してください。原因不明でヒューズが切れた場合は、販売店で点検を受けてください。

【取り外し】



【取り付け】



Sウinkerとホンの点検S

- イグニッションスイッチキーを「ON」位置にしてください。
- 前後左右のウinkerが点滅すること、および警告ブザーが鳴ることを確認してください。
- ウinkerレンズに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。
- ホンボタンを押して、作動するか確認してください。

⚠ 注意：

- ウinkerには規定の仕様の電球を使用してください。使用しない場合、ウinkerが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 曲がる、または車線変更する前にウinkerを点灯させ、後続車のドライバーに知らせてください。
- 使用後はウinkerのボタンを押して直ちに消灯してください。消灯しないと、両側のウinkerが点滅したままとなり、後続車のドライバーを混乱させるおそれがあります。

S前照灯と尾灯の点検S

- エンジンを始動するとヘッドライトが自動的に点灯します。ヘッドライトとテールランプが点灯するか確認してください。
- 壁に照射してヘッドライトの明るさと照射方向が正しいか確認してください。
- ヘッドライトカバーに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。

Sブレーキランプの点検S

- イグニッションスイッチキーを「ON」位置にし、前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキランプが点灯するか確認してください。
- ブレーキランプカバーに汚れ、ひび割れ、緩みがないか確認してください。

⚠ 注意：

- 電気系統の損傷、電球の焼損、バッテリーの放電を防ぐため、規定の仕様の電球のみを使用し、異なる仕様の電球は使用しないでください。
- 過負荷やショートを防ぐため、電装部品を改造したり追加したりしないでください。重大な場合、火災が発生し車両が焼失するおそれがあります。

S燃料漏れの点検S

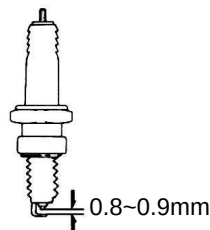
- 燃料タンク、フューエルカップ、燃料ホースに漏れがないか確認してください。

S車体各部の潤滑状態の点検S

- 車体の各可動部に十分な潤滑が施されているか確認してください。（例：センタースタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーなどの支点）

Sスパークプラグの点検S

- スパークプラグケーブルのキャップを取り外してください。
- 電極に汚れやカーボン付着がないか確認してください。
- 電極に付着したカーボンをスチールワイヤーで除去し、ガソリンでスパークプラグを清掃してから、布で拭いて乾かしてください。
- 電極を確認し、隙間を0.8~0.9 mmに調整してください。（シックスゲージで確認してください）
- スパークプラグを手で締められるところまで締めた後、レンチでさらに1/2~3/4回転締め付けてください。



⚠ 警告：

走行後のエンジンは非常に高温になっています。やけどをしないよう注意してください。

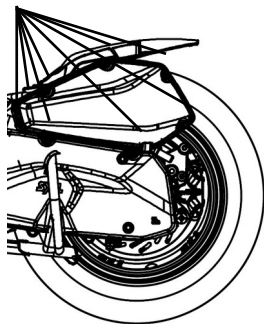
※本車両のエンジン仕様に適合し、メーカーが推奨するスパークプラグのみを使用してください。（仕様諸元を参照してください。）

Sエアクリナーの点検S

《分解手順》

- エアクリナーカバーの取り付けネジを外します。
- エアクリナーカバーを取り外し、フィルターエレメントを取り外します。
- エレメントを取り出して清掃します。（整備スケジュールを参照してください。）

ネジ



《分解手順》

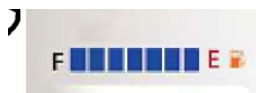
- エアクリナーの組み付けは、分解と逆の手順で行ってください。

⚠ 注意：

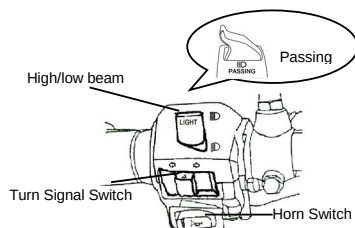
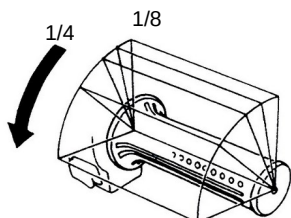
- ほこりの堆積は、出力の低下や燃費の悪化を引き起こす主な原因の一つです。
- 埃の多い道路を頻繁に走行する場合は、エンジンの寿命を延ばすため、エアクリナーエレメントの交換頻度を上げてください。
- エアクリナーの取り付けが不適切な場合、ほこりがシリンダー内に吸い込まれ、早期摩耗や出力の低下、エンジン寿命の短縮を招くおそれがあります。
- 車両を洗浄する際は、エアクリナーを濡らさないよう注意してください。濡れるとエンジンが始動しにくくなります。

11. 異常や不具合が発生した場合

S エンジンが始動しない場合の診断S



- (1). イグニッションスイッチキーは「ON」位置になっていますか？ (2). 燃料タンクに十分な燃料がありますか？ (3). スタートボタンを押す際に、前輪または後輪のブレーキがかかっていますか？



- (4). スタートボタンを押しながらスロットルグリップを回していませんか？ (5). イグニッションスイッチキーを「ON」位置にしてホーンボタンを押してください。ホーンが鳴らない場合、ヒューズが切れている可能性があります。

【上記の項目に問題がなく、それでもエンジンが始動しない場合は、直ちにSYM正規販売店で点検を受けてください。】

12. エンジン燃料についての推奨事項

- 本車両はオクタン価 92 以上の無鉛ガソリンを使用するよう設計されています。

13. トランスミッションオイル

- 推奨オイル：SAE 85W-90 以上のギヤオイル。

14.オートバイ運転時の注意事項

1. メインスタンドで車両を立て、シートに座ります。
車両を前方に押し出してメインスタンドを上げます。

注意：

- ・ 発進前にむやみにスロットルグリップを回してエンジン回転数を上げないでください。

2. 車両の左側から乗車し、シートに正しく座り、車両の転倒を防ぐため右足をしっかりと地面につけてください。

注意：

- ・ 発進前にリアブレーキをかけてください。

3. スロットルグリップをゆっくりと回すと、車両が動き始めます。

注意：

- ・ スロットルグリップを急に回したり、クラッチレバーを急に離したりすると、車両が急発進し非常に危険です。
- ・ 発進前にサイドスタンドが完全に戻っていることを確認してください。

【急ブレーキと急な旋回を行わないでください】

- ・ 急ブレーキと急な旋回は、スリップや転倒の原因となります。
- ・ 急ブレーキや急な旋回は、特に雨天時など路面が濡れて滑りやすいときに、スリップ、横滑り、転倒の原因となります。

【雨天時は特に注意して走行してください】

- ・ 雨天時や濡れた路面では、乾燥した路面よりも制動距離が長くなります。そのため、速度を落とし、早めにブレーキをかける準備をしてください。
- ・ 坂道を下る際は、スロットルグリップを戻し、必要に応じて適切にブレーキをかけながら減速してください。

15.§アンチロック・ブレーキ・システム§

ABSは、直進走行中に急ブレーキをかけた際にホイールがロックするのを防ぐために設計されています。ABSはブレーキ力を自動的に調整します。グリップ力とブレーキ力を断続的に発生させることで、ホイールのロックを防ぎ、停止時の安定したステアリング操作を可能にします。

ブレーキの操作方法は、従来のオートバイと同じです。フロントブレーキにはブレーキレバー、リアブレーキにはブレーキペダルを使用します。

ABSはホイールのロックを防ぐことで停止時の安定性を高めますが、以下の特性に注意してください。

- ABSは、路面状況の悪化や判断ミス、ブレーキの誤った操作を補うことはできません。ABSを装備していないオートバイと同様の注意を払う必要があります。
- ABSは制動距離を短縮するために設計されたものではありません。路面が緩い場所、凹凸のある路面、下り坂などでは、ABS装備車の制動距離が、ABSを装備していない同等のオートバイよりも長くなる場合があります。このような場所では特に注意してください。
- ABSは直進時のブレーキによるホイールロックを防止しますが、コーナリング中のブレーキ操作によって発生するホイールスリップを制御することはできません。コーナーを曲がるときは、前後ブレーキを軽くかけるだけにするか、まったくブレーキをかけないようにしてください。コーナーに入る前に減速してください。
- ABSに内蔵されたコンピューターは、車速とホイール速度を比較しています。推奨されていないタイヤを使用すると、ホイール速度に影響を与え、コンピューターの誤判断を招き、制動距離が延びるおそれがあります。

注意：

ABSは、ライダーをあらゆる危険から保護できるものではなく、安全な運転操作に代わるものでもありません。ABSシステムの作動方法とその限界について理解しておいてください。天候、路面状況、交通状況に応じた適切な速度と方法で走行することは、ライダー自身の責任です。

§TCS システム§

TCSはコントロールユニットを使用して前輪と後輪の速度を検出します。オートバイの発進時や加速時に、後輪と前輪の速度差が大きすぎると検出された場合、コントロールユニットは直ちに駆動力が過大であると判断し、点火タイミングの調整または燃料の遮断によってエンジンのトルク出力を即座に低下させ、駆動力を減少させることで、後輪のスリップ率を低減します。

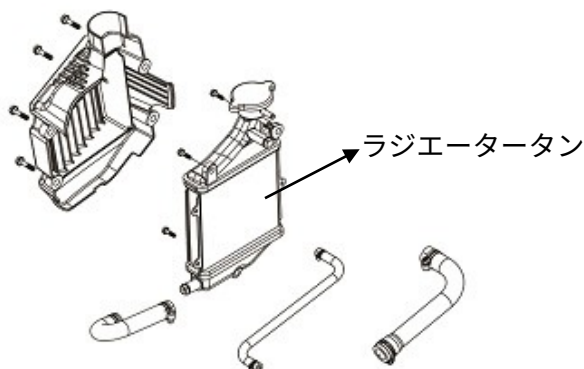
TCS（トラクションコントロールシステム）は、オートバイの発進時および加速時における後輪のスリップを防止または軽減するようエンジンの出力トルクを制御し、オートバイの走行方向の安定性を維持することを目的としています。

ライダーによるオートバイの制御とは、本質的にはタイヤと路面の間に働く力を制御することですが、ホイールと路面の間の力は、タイヤと路面の間の粘着特性によって制限されます。オートバイの発進時や加速時など、タイヤと路面の間の力が粘着限界に近づく、または達すると、雪道、凍結路、ぬかるんだ濡れた路面のように路面の摩擦係数が小さい場合、オートバイの駆動トルクが往々にしてタイヤと路面の間の粘着限界を超え、後輪の過度なスリップを引き起こします。これはオートバイの走行性能を低下させるだけでなく、タイヤの摩耗を増加させ、伝達系統およびライダーへの負荷を増大させ、燃料消費量を増加させるとともに、オートバイの操縦性、安定性、安全性を損ないます。したがって、オートバイのタイヤと路面の間に働く力を適切に調整することは、オートバイの能動的安全性を高める上で大きな意義があります。

16.冷却システムの点検

(冷却システムの漏れを点検する)

1. 平坦な場所でメインスタンドを使用して車両を支えます。
2. ラジエーターと配管に漏れがないか点検します。
3. 車両を駐車した地面に水滴が垂れていないか確認します。



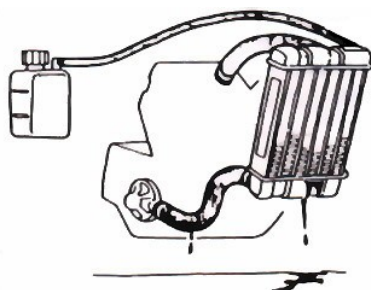
冷却水の補充

- 車両を平坦な場所で、直立した状態に支えます。
- タンクカバーを開けます
- リザーブタンクのカバーを開け、規定量まで冷却水:
- 冷却水の量が少なすぎる場合は、冷却システムに異常がある可能性があります。
- ラジエーターの錆びを防ぐため、銘柄不明の冷却水は使用しないでください

不凍液濃度：50%

ラジエータータンク冷却水容量：430ml;

リザーブタンク冷却水容量：75～150ml。



17・定期点検整備スケジュール

項目	点検項目	整備走行距離	1000km	5000km ごと	10000km ごと	15000km ごと
		点検整備間隔	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月	1 年
1	エアクリーナーエレメント*		I	C	R	
2	オイルフィルター（メッシュフィルター）		I	10,000km ごとに清掃		
3	エンジンオイル（水冷モデル）		R	R		
4	タイヤ、空気圧		I	I		
5	バッテリー		I	I		
6	スパークプラグ		I	I		R
7	スロットルバルブのカーボン除去清掃		I		I	
8	ステアリングベアリングおよびハンドルの点検		I	I		
9	トランスミッションの漏れを点検		I	I		
10	クランクケースの漏れを点検		I	I		
11	トランスミッションオイル		I	R		
12	ブレーキフルード		I	30,000km ごとに交換		
13	ドライブベルト／ローラー／ドライブプーリー			C		R
14	燃料タンクチューブおよび燃料フィルター		I	I		
15	スロットルバルブの作動およびケーブル		I	I		
16	ボルトおよびナット		I	I		
17	ガイド／テンショナー／テンショナーリフター		20,000km ごとに点検			
18	バルブクリアランス		I		I	
19	ショックアブソーバー		I		I	
20	フロント／リアサスペンション		I		I	
21	メインスタンド／サイドスタンド		I/L		I/L	
22	クランクケースブローバイシステム（PCV）		I		C	
23	冷却水		I	I		R
24	冷却ファン、チューブ		I	I		
25	クラッチ、クラッチアウター、ドリブンプーリー				C	
26	ブレーキ機構／ブレーキライニング（パッド）*		I	I		
27	灯火類、スイッチ類および電気システム		I	I		

☆上記の整備スケジュールは、月間 1,000km を目安とし、走行距離または期間のいずれか早い方を基準として設定されています。

記号：I～点検、清掃、調整 R～交換

C～清掃（必要に応じて交換）

L～給油

備考：1. 車両を砂ぼこりの多い道路や汚染の激しい環境で使用する場合は、エアクリーナーエレメントをより頻繁に清掃または交換してください。

2. 車両を高速で頻繁に使用する場合や、走行距離が多くなった場合は、整備をより頻繁に行ってください。

【備考の注記は、該当車種を示すために使用されています。】

18・仕様

項目 \ モデル仕様	TEA12T3CN-EU/ TEA12T4CN-EU
全長	1980mm±20mm
全幅	780mm±10mm
全高	1225mm±20mm
ホイールベース	1390mm±20mm
車両重量	153kg
最大許容重量	303kg (前: 102kg 後: 201kg)
種類	4 ストロークエンジン
使用燃料	無鉛ガソリン
圧縮比	11.2±0.2:1
最高出力	9.0KW/7500rpm
最大トルク	11.5Nm/7000rpm
始動方式	セル式 (電気始動)
フロントショックアブソーバー	テレスコピック式
リアショックアブソーバー	ユニットスイング式
変速方式	C.V.T.
フロントタイヤ	120/70-
リアタイヤ	130/70-13
ホイール	アルミニウム
タイヤ空気圧	フロント: 標準 1.8kgf/cm ² 、 リア: 標準 2.3kgf/cm ²
フロントブレーキ	ディスク式 (Ø 260 mm)
リアブレーキ	ディスク式 (Ø 233 mm)
ヘッドライト ロービーム/ ハイスピードビーム	13.5V 29W/14.5W (LED)
ポジションランプ	13.5V 3.4W (LED)
テールランプ/ストップランプ	12V 1.9W /12V 3W(LED)
フロントウインカー	13.5V 2.4W *2(LED)
リアウインカー	13.5V 2.4W *2(LED)
ナンバー灯	12V 5W
エンジンオイル容量	1.05L (フィルター交換なしの場合は 1L)
ミッションオイル容量	110cc (交換時 100cc)
燃料タンク容量	15 ⁰ ₋₁ L
ヒューズ	15A*3+20A*2+25A
スパークプラグ	CPR8EA-9
バッテリー容量	(12V 8Ah)

注意：仕様および装備は予告なく変更される場合があります。

修理・整備記録表

型式: _____ 車台番号 (VIN): _____

お客様名: _____ 電話番号: _____

[illegible]

販売店署名:

整備担当署名: